

「聞こえ」のことを考えてみよう。



～ Profile ～
 叶望さん
 聴者で加帆さんの親友
 趣味はお菓子作りと
 音楽を聴くこと
 好きな言葉は「一期一会」



～ Profile ～
 加帆さん
 先天性聴覚障がいのある高校生
 趣味はダンス
 好きな言葉は「なれる自分じゃなくて
 なりたい自分になる」

聞こえないことも
 「対面の会話は、人工内耳を付けてある程度できるんですよ」と明るい笑顔を見せながら話すのは、生まれてすぐに高度難聴と診断され、手術とリハビリを通し、徐々に聴覚を手に入れたという高校生の加帆さん。
 「話している、本当に聞こえないのつとと言われることがあります。人工内耳を外せば無音ですし、付けていても全部は聞こえない。左右差もかなりあるんです」と聞こえの違いを教えてくださいました。

楽しんで声を弾ませ、会話をしている女子高校生二人組。よく見る光景ですが、一人は人工内耳を装着しています。生まれつき聴覚障がいのある加帆さんと、その親友の叶望さんです。
 仲良しの二人に、聞こえないってどんなコミュニケーションのツボはありますか、いろいろとお話を聞いてみました。

困り事はほとんど
 日常生活での困り事を探ねると「お店では、マスクで店員さんの口の動きが読めないつとえにアクリル板もあつて聞き取りづらく、スムーズにいきませんと最近の話を教えてくれました。
 学校では、プールの授業は人工内耳を外すため手で合図をもらったり、聞き取りづらいオンライン授業は自習時間にしてもらうなど、先生や友達とコミュニケーションを重ねることで、学校生活が過ごしやすくなっているといえます。「みんなと違うことをするのは嫌でしたが、それは仕方がないと考えるようにしています。自分から積極的にかきかけ、協力してもらうことが大事だと感じます」と話します。

困り事はほとんど
 日常生活での困り事を探ねると「お店では、マスクで店員さんの口の動きが読めないつとえにアクリル板もあつて聞き取りづらく、スムーズにいきませんと最近の話を教えてくれました。
 学校では、プールの授業は人工内耳を外すため手で合図をもらったり、聞き取りづらいオンライン授業は自習時間にしてもらうなど、先生や友達とコミュニケーションを重ねることで、学校生活が過ごしやすくなっているといえます。「みんなと違うことをするのは嫌でしたが、それは仕方がないと考えるようにしています。自分から積極的にかきかけ、協力してもらうことが大事だと感じます」と話します。



ろう者の加帆さん(右)と親友の叶望さん(左)。会話でコミュニケーションをとりますが、携帯電話の画面に文字を打つこともあります。



大好きな友達がいるから毎日楽しい
 「聞こえない時、叶望ちゃんは何度聞き返しても優しいし、発音に悩んだ時もフォローしてくれて嬉しかった」と加帆さんは親友に笑顔を向けます。
 叶望さんは「聞こえにくいと知って、気付けてもらえるように前や横から話しかけるようにしているけど、心がけていることはそれくらいです」と朗らかに答えます。
 「助けが必要なこともあるけど、気を遣いすぎず自然に接してくれる叶望ちゃんがいるから、毎日がとても楽しい」と言葉繋ぐ加帆さんと親友の叶望さんの関係は、障がいのある人と接し方のヒントになりそうです。

大好きな友達がいるから毎日楽しい

皆さんは、聴覚障がいということとどんなことを思い浮かべますか。「補聴器を付ける」「手話を使う」「ろう学校に通う」など、それぞれのイメージがあると思います。近年はテレビで手話通訳を目にしたり、手話を共通言語とするお店「サイン・ングストア」が話題になるなど、手話をきっかけに聴覚障がいの話題に触れる機会が増えています。
 市内には、生まれつき聞こえない人(ろう者)や聞こえづらい人、病気や事故で聞こえなくなった人など、様々な聴覚障がいのある人が暮らしています。一見すると分かりづらい障がいのため、気が付かずに接していることがあるかもしれません。また、同じコミュニケーションにいても接し方が分からず、関わることをためらっている人もいるのではないのでしょうか。
 沼津市は、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現のため「沼津市手話言語条例」を制定し、手話が言語であるという認識の下、手話や聞こえないことへの理解を促進しています。
 今回の特集では、聴覚障がいのある人や周りの人の話をお伝えするとともに、市の取組を皆さんに紹介します。この機会にぜひ、「聞こえ」のことについて考えてみませんか。